

氏 名	福原 寛之
学 位 の 種 類	博士 (医学)
学 位 記 番 号	甲第320号
学位授与年月日	平成22年3月3日
審 査 委 員	主査 教授 鈴宮 淳司
	副査 教授 奥西 秀樹
	副査 教授 川内 秀之

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

Reg は脾臓再生に関わる増殖因子として発見されたが、胃にも発現がみられる。Reg は胃粘膜傷害時の再生粘膜の増殖を制御する重要な因子であると考えられるが *in vivo* での検討は少ない。

本研究は *reg* 遺伝子導入マウス(以下 Tg)を作製し、2種類の胃潰瘍実験で胃粘膜傷害時の修復過程における Reg の役割を検討した。9～15週令の同腹・同性の Tg と野生型マウス(以下 Wt)をペアにし実験を施行。Tg および Wt の胃粘膜組織構築が組織学的に差異がないことを確認後、これらを用いて水浸拘束潰瘍実験を施行。その結果、Tg の胃粘膜傷害の程度が Wt に比較し明らかに軽度であった。次に急性胃粘膜傷害からの修復過程の検討のために塩酸エタノール潰瘍実験を施行。傷害形成期(注入後6時間前後)において両者の傷害の程度にほとんど差を認めなかったが、その後の傷害修復期(注入後12～24時間)において Tg の方が Wt に比較し、傷害の程度が明らかに低く、急速に傷害修復が促進されていた。また傷害修復期において Tg は *c-fos* の遺伝子発現が Wt に比べ著明に亢進しており、細胞増殖能の高さが示唆された。以上より Reg は胃粘膜傷害時には粘膜防御因子としてよりも修復促進因子としてその効果を発揮し、本研究はそれを *in vivo* で証明したものである。